

令和5年度 自己評価書

2024 (令和6年) 3月

学校法人高橋学園

千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉建学の精神と教育目標

建学の精神「創造」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

スクールミッション (学校教育法施行規則第103条の2に定める方針)

千葉学芸高等学校 スクールミッション

建学の精神「創造」のもとで、人間性を涵養し、文化の創造を担う有為な人材を育成します。

グラデュエーションポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

「強い精神力と思いやりの心」「知性と判断力」「感性と技芸」を備え、美しい人類文化の創造にあたる人間性と実力を育成します。

- (1) 個々の特性に応じて、学力・技術を磨きます。
- (2) 表現・コミュニケーション力、社会性などの21世紀型スキルを身につけます。
- (3) 科学的に理解し判断できる力を身につけます。

カリキュラムポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

- (1) 美しい人間性と人類文化の創造を目指し、教育目標「心の創造」「智の創造」「美の創造」に沿って教育活動を展開します。
- (2) 時代を超えたテーマである人間性や実力を育む教育と、国際化や情報化など時代のニーズに対応した最新の教育を両立します。
- (3) 一人一人の生徒が持つ優れた特性を見出し、伸長する特性伸長の教育を行います。
- (4) 知識ばかりでなく技能の育成を重視した技能教育を行います。
- (5) 特色ある教育活動として、色彩教育、情報教育、国際教育、福祉教育、芸能教育、公務員教育を展開します。
- (6) 人類共通の価値観を尊重し、「持続可能な開発目標 (SDGs)」を理解し実践する探究活動を奨

励します。
アドミッションポリシー（入学者の受け入れに関する方針）
(1) 高等学校で学ぶための基礎学力を身につけた生徒。
(2) 高校生活で、まじめに努力する生徒。
(3) 学業やスポーツ、文化活動など、さまざまな特性をもつ生徒を歓迎します。

〈2〉教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》
(1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
(2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
(3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
(4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》
(1) よい伝統と、よい校風をつくります
(2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます
(3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、令和5年度の目標を以下のように設定した。

令和5年度学校目標 『自己肯定感』

One Up（ワンナップ）は「一歩リードすること」。

千葉学芸高校として24年目。本年度のスローガンは「自己肯定感」とした。

自己肯定感とは、自分や他者から見たときの自分自身を肯定的に評価し受け止めることであり、現

在の自分の良さや強みを自覚することである。自己肯定感を高め、自己アピール力、表現力の改善へとつなげていく。

互いに認め合い、互いの良さを尊重するさわやかな人間関係を目指す。まずは嘘をつかないこと。ありのままの自分を認め、自己肯定する状況では、嘘をつく必要が無い。自己肯定感が低いと、嘘や虚勢で人間関係を壊していくこととなる。

生徒が自分がある程度さらけだしていく勇気をもたせたい。プライドを捨てる必要は無いが、プライドに邪魔されて、自分を虚飾で飾り立てるのも不幸である。

生徒同士が仲良くなる仕掛けとして、コミュニケーション力を高めるような活動機会の提供も配慮していきたい

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校 〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地 TEL 0475-52-1161 FAX 0475-52-1163 インターネット http://www.cgh.ed.jp/ 電子メール info@cgh.ed.jp	令和5年度 学級数・生徒数 1学年 4学級 147名 2学年 4学級 137名 3学年 5学級 165名 全校 13学級 449名
--	---

学校の概要については、インターネットホームページで公表。また、コースガイド、創立130周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、令和5年度学校要覧（冊子全80頁、関係者向け5月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（令和5年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

特に重要な課題として、生徒募集および新設した学生寮の運営の2つを取り上げる。

概況

コロナ禍が5月8日の行動制限の撤廃により沈静化し、平年並みの学校行事の運営に移行する年となった。コロナ感染やインフルエンザ感染者は散見されるものの、通常の感染症対策のもとで管理され、クラスター感染の発生などもみられなかった。各種学校行事は一般来場の制限をなくし、平時の状況で実施することができた。生徒海外研修も再開を企画したが、希望参加数が少なく催行しなかった。体育祭は感染症対策に配慮し種目を工夫し行った。富士登山は希望制で実施。夏期研修は富士緑の休暇村で実施した。卒業式は来賓130名、保護者221名の参加で盛大に挙行することができた。

生徒募集状況の課題

令和5年度の新入学生徒数は前年－3名であり、前年並であった。前年・前々年は－50、＋5であり大幅な減少は回避されたが低水準である。近郊の中学卒業生数が減少する中で、近隣公立高校の定員が過剰気味のため厳しい状況が続いており、私学の定員割れが続くなど環境が悪化する中でも、広報部を中心に生徒募集の努力をしたが、募集定員の53パーセントに留まった。他方、ICT環境の充実やコロナ禍の中でも学校行事を丁寧に開催してきたことへの評価は高く、野球部の広範囲からの生徒募集、全国でも少ないフルコンタクト空手部への入学希望などが好材料となっている。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主である。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高める必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消にも努めている。

今後も、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も若い世代に移行しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分に知られていない懸念がある。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。公立の動向も注視し、展望をもって取り組んでいきたい。千葉県教育庁による山武地域協議会が開催され地域の公立高校の将来計画について関係者の議論が行われたが、その中で大幅な定員未充足状態の公立高校の統合などが議論されており今後の動向を注視したい。

学生寮「創勇寮」の創設

2022年度に用地買収・設計・建築を行い2023年3月に竣工した東金市道庭の学生寮「創勇寮」に野球部所属生徒68名が入寮し供用が開始された。木造2階建806平方メートル。20の居室を備える。

新たに寮監1名を雇用することとし、労働基準法第41条3号に基づく断続的労働として労働基準監督署の許可を得て勤務形態を調整し寮の管理運営にあたることとした。また、食事は朝食と夕食を提供するものとして、株式会社丸鈴と業務提携を行い、寮内の調理室にて調理し提供する体制となった。寮費は食事代を含めて月額6万5000円とし、光熱費として月額3000円を徴収。関係教職員により学生寮運営委員会を設けて寮運営の指導にあっている。

寮の運営にあたって、4月当初近隣から騒音等の苦情があり、近隣住宅側の窓を開放しないなどの対処をすることとした。また総合グラウンドを含め周辺騒音調査を実施し、現状の騒音対策で問題がないことが確認された。

寮生の人間関係も良好であったが、10月に1年生1名がいじめを申し出たので調査したところ、6月に2年生と1年生のふざけ合いの過程で行き過ぎた行為があったことが判明し、関係生徒には特別指導や厳重注意などの指導を行い再発防止を行った。その他は大きな問題はなく、現在まで野球部内を含めて良好な人間関係を保っている。

また避難訓練を実施しており安全な生活が維持されるよう配慮している。

物価高によりエネルギー費用が高騰し寮運営にも経済的な支障があり、現状は概ね当初設定した光熱費等の範囲に収まっているものの、今後は値上げを必要とする状況となることも予想される。

いじめ防止対策については、いじめ防止対策推進法に基づき、方針を定め、防止対策を展開している。年2回のアンケート実施により加害・被害・目撃情報を収集するほか、WEB相談窓口を常設し、また教育相談室と連携して事案の早期把握につとめ、また各事案については迅速に事実確認の調査を行い、確認された事実に基づいて関係生徒への指導を展開するようになっている。

施設設備の拡充

(1) メディアラボの更新

A棟3階メディアラボの内装を改装し、使い勝手のよいメディア制作スペースとした。画像・映像編集、印刷出力、コンピュータ刺繍機、防音スタジオなどを設けている。

また、自立ロボットPepper1台を機種更新し、新たにChat GPT連携機能を備えAI機能が加わった。

(2) LED照明への更新（第1期）

文部科学省施設高機能化補助金を利用して校舎1階および体育館棟の照明のLED化を行った。蛍光灯の製造終了にともないLED照明への移行が推奨されており、今後は普通教室棟を含む全校をLED化していく予定である。

正面入口となるB棟1階エレベーター前には青空を再現した照明を設けて明るくモダンな雰囲気とした。

(3) 感染症対策のための設備拡充

国補助金を活用し大型空気清浄機を整備した。

災害

自然災害による損害は軽微（台風）であった。

栄誉の記録

- ・全国大会出場 吹奏楽部、空手部、少林寺拳法部、美術部
- ・関東大会出場 自転車競技部、ゴルフ部、空手部、少林寺拳法部

B. 部門ごとの評価（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校評価報告書（千葉学芸高等学校）

学校運営会議 中止（感染症まん延防止のため不開催）。

生徒（2～3月）にWebフォームにより学校評価アンケートを実施。保護者は5月父母の会時に実施。

以 上